



フジコー<2405>、経営陣によるTOBで非公開化へ



東証2部上場で建設廃棄物の中間処理を主力とするフジコーは1日、MBO（経営陣による買収）を受け入れ、株式を非公開化すると発表した。小林直人社長が設立したHOP（千葉県白井市）がTOB（株式公開買い付け）を実施し、全株式（小林社長ら経営陣と親族らが所有する不応募株式22.84%を除く）の取得を目指す。

フジコーは1972年にキクイムシ、ダニ、ゴキブリなど家屋害虫の駆除工事を目的にスタートした。その後、家屋の解体工事から発生する建設系廃棄物処理に進出し、主力事業に育てた。食品系廃棄物処理のほか、製材くずなどを利用した森林発電事業も手がける。短期的な業績変動にとらわれず、中長期的に新規事業や新規設備への投資を進めるには株式の非公開化が望ましいと判断したという。

買付価格は1株600円で、TOB公表前日の終値550円に9.09%のプレミアムを加えた。買付予定数は33万9077株で、買付金額は最大20億円強。買付予定数の下限は所有割合43.83%。買付期間は11月5日～12月16日。決済開始日は12月23日。買付代理人はみずほ証券。